



大正

だより 6月号



友と問う

ひらめき集め

花ひらく

副校長 石井 智裕季

本校では今年度、子どもたち一人一人のよりよい成長を願い、生活科および総合的な学習の時間の充実に取り組んでいます。

先日、子どもたちの総合的な学習の時間を参観しました。子どもたちは、授業の中で今年度の総合的な学習の時間について、これまでの学びを振り返りながら、「これからどのような課題や問題に取り組みたいか」「今、自分はどのようなことに興味・関心をもっているのか」について、意見を交わしながら一人一人が意欲的に考える姿を目にすることができました。

これからの社会においては、知識を身に付けるだけでなく、正解のない問いなどについて、自分の思いや考えをしっかりともち、それらを他者に自分の言葉でわかりやすく伝える力が一層求められます。そこで本校では、主体的、協働的な学びの中で、思いや考えを豊かに表現する「表現力」の育成を、教育活動の大きな柱の一つとして位置付けました。

生活科では、子どもたちが植物を育てたり、学校や地域を探検する中で発見したことや感じたことを、友達に伝え合ったり、絵や言葉、動きなど様々な方法で表現をします。

互いの気づきに触れることで、「そんな見方もあるのか」と新たな発見につながり、自分の思いや考えをさらに広げていきます。同時に活動の中で生まれた疑問について自ら調べようとしたり、友達と協力して確かめたりするなど、主体的に関わろうとする姿も育っていきます。

また、総合的な学習の時間では、子どもたちが自ら問いや課題を見つけ、調べたことをもとに話し合いを重ねながら学びを深めます。インタビューや調査活動などを通して得た情報を整理し、「どのように伝えれば相手により分かりやすく、効果的に伝わるのか」といった点を意識しながら、表現や発表の仕方を工夫していきます。他者と意見を交流する中で考えを見直したり、新たな視点を取り入れたりすることで、主体的に学び続ける力や表現力が着実に育っていきます。

このような日々の学習の中で、子どもたちは互いの考えに触れ、自分の思いを広げながら、「伝える楽しさ」や「伝わる喜び」を実感していきます。

今後も教職員一同、子どもたちの学びを丁寧に支えながら、主体的に学び、豊かに表現する力の育成に努めてまいります。

また、生活科や総合的な学習の時間では、地域の中での体験や人との関わりが、子どもたちの学びを一層豊かなものにします。見学やインタビュー、体験活動などを通して、多くの気づきや学びが生まれていきます。保護者や地域の皆様には、学習へのご理解とともに、今後活動へのご協力をお願いする場面もあるかと思っています。子どもたちの学びを支える大切な機会として、ご協力いただけましたら幸いです。

